しらかば

2017年 冬号 第35号

北海道中国帰国者支援・交流センター　〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでる 2・7
電話 011-252-3411　FAX011-252-3412　URL: http://www.hokkaido-sien-center.jp　E-mail: hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp

市民が参加、理解を深める

中国・樺太帰国者を知る集い

「中国・樺太帰国者を知る集い」が 11月26日、かでるホールにて開催されました。この催しは、地域における残留邦人への理解を促す目的で開催され、参加者は 191名、うち 103名が市民の参加でした。

所長の開会挨拶につづいて、当センターで作成した「残留邦人の歴史と現状」と題したスライドが上映され、残留を余儀なくされた経緯や帰国後の問題などが紹介されました。帰国者の中には自身の境遇に重ね合わせて涙する人も。また一般の参加者にも、このスライドは「わかりやすかった」と好評でした。

続いて上演された樺太帰国者による劇は、帰国者たちが実際に日本の生活の中で戸惑ったり、誤解されたりした体験がもとになっています。帰国者が直面する文化や言葉の壁を、一般の人にも感じてもらえる内容でした。一生懸命練習した成果が出て、演じた帰国者の皆さんは「私たちの思いが届いたと思う」と満足そうでした。

また中国の伝統舞踊や太極拳のほか、札幌市立大通高校とNPO「CaSA」の生徒たちによる歌やダンスが披露されました。大通高校は道内で唯一、海外から来た生徒のための特別入学枠がある高校です。帰国者、日本で暮らす外国人、日本人の子供たちが一緒にロシア民謡「コロボーチカ」に合わせて踊る姿、自由にこだわりなく様々な文化を楽しんでいる姿は、本当に清々しいものでした。

帰国者へ温かな声も

参加者からは「とてもよかった」「勉強になった」という声のほか、「子どもの頃サハリンにいた」「場合によっては、私が日本語を学ぶ身になっていたかも」という声もあり、引揚者である人も今回の催しに関心を持って来てくれました。

「大変な思いをした方々が、少しでも今の生活を楽しんでいるのが嬉しかった」「生まれ育った国を離れ、違う国の文化を受け入れての生活は大変なこと」と帰国者に寄り添う温かい感想もあり、より深く帰国者について知ってもらう一助となった集いでした。

みんなでつくるロシアのお祭り　樺太帰国者交流パーティー

12月23日東区民センターに、旭川・帯広など道内の樺太帰国者と支援者計88名が集まり、「樺太帰国者交流パーティー」が開催されました。開催時期を年末に変えてから、今年で4回目。クリスマスツリー点灯や、帰国者によるミニコンサートもすっかり恒例となりました。

はじまりはロシアのサンタクロース「ジェド・マロース」が登場し、魔法を使ってもみの木に灯りをつけようとしますがうまくいきません。皆で力を合わせて、ようやく灯りが付いたところで、所長の挨拶、ミニコンサート、来年の酉年にちなんだゲーム、ダンスとプログラムは続き、参加者はリラックスした様子で「ロシアのお祭り」を楽しみました。テーブルの上には、帰国者有志手作りの 800個のペリメニ（ロシアの水餃子）の他、持ち寄りの手作り料理がいっぱいに並べられました。

ミニコンサートでは、ハーモニカ演奏や歌の他、帰国者2世のTさん夫婦が大人の雰囲気たっぷりのダンスを披露。また 4年前の交流パーティーで大好評を博した「白鳥の湖」が、今回は白鳥と黒鳥の踊りで披露され、再び喝采を浴びていました。

交流広がり、心つながる

今回は中国帰国者も数名参加しました。中国帰国者の交流会とは雰囲気が違うと「樺太帰国者の人たちが優しく迎えてくれて、ロシア語がわからなくても心から楽しめた。ロシアの餃子や具の入ったパン（ピロシキ）もおいしかった」と喜んでいました。また1人は樺太帰国者とともにミニコンサートにも出演し、また新たに交流の輪が広がりました。

最後は、ロシアの人が大好きなフリーダンスでパーティーは盛況のうちに締めくくられ、共催のNPO法人日本サハリン協会の角田洋子理事が、飛行機が欠航のため参加できなかった斎藤弘美会長の代わりに閉会挨拶をしました。皆さん、お互いに来る新年を祝う挨拶をし、笑顔で「よかった」「楽しかった」と言い、心つながる会になりました。

稚内でも交流パーティー

ロシアの雰囲気いっぱいに

12月25日、稚内日ロ友好会館で樺太帰国者のによるクリスマスパーティーが開かれました。

今年で 2回目となるパーティーは、昨年と同じく稚内市在住の帰国者の皆さんが知恵を出し合い、協力しあって、暖かくて楽しいロシアの雰囲気いっぱいの集いとなりました。そして、これまでお世話になった方々にたいして、感謝の気持ちが表わされました。

参加したのは帰国者の皆さんや、横田前稚内市長をはじめとする市役所OBの皆さんなど 26名。パーティーは、当センターと日本サハリン協会が共同で開催し、帰国者の皆さんが自発的に取り組んだ活動を支援しました。

パーティーは、日本サハリン協会齊藤弘美会長のあいさつではじまりました。テーブルには、帰国者の皆さんの手作りのロシア料理がならび、「これぞロシアの味」と招かれた皆さんも大喜び。歌やダンス、ロシアのゲームには皆さんが参加して、笑顔とかけ声、大爆笑が絶えない中、心の底から帰国者が伝えるロシアの文化を楽しみました。

地域に広がる帰国者の活動

さまざまな苦労を乗り越えて稚内の地で生活している帰国者の皆さんが、生き生きと地域に広がる活動を生み出しました。参加した人からは、「誰から言われたのでもなく、自発的に取り組んだことは素晴らしい」という声が聞かれ、地域の交流を広げようという、帰国者の皆さんの思いが伝わる会になりました。

旭川・ボランティア研修会

「なぜ残されたのか・・」
帰国者が語る体験、歴史

昨年の樺太帰国者問題の研修に続き、今年は中国帰国者問題を学ぶ会を開きました。11月22日「なぜ残されたのか、そして何が起きたのか」と題して、中国帰国者林文雄さんの体験談を聞きました。樺太帰国者のHさんは「たくさん聞きたいことがある」と参加、同じ時代に生き樺太と中国に残されたことに深い関心を示しました。

孤児体験、命をつないだ人生

満州開拓移民から逃避行、引揚にいたる歴史を学び、そのなかで起きた林さんの体験を聞きました。7歳の時、母に連れられ避難した難民収容所で、母が見つけてきた食べ物を毛布を被って食べたと今でもはっきり覚えていること。母が亡くなり、一人となってソ連兵の食べ残しを拾い食いしたり、ハルピン駅構内のベンチ下で寝泊まりしていた時に、足で蹴られて追い出されたこと。そして連れていかれた床屋で働かされ、そうして命をつないだことなど、苦難の人生を語りました。

ボランティアのみなさんは、林さんの体験談に聞き入り、「もっと聞いてみたい」と理解を深めていました。

H さんは「戦争を起こしてはならない。戦争になったら犠牲になるのは子供たち、自分の体験に重なる」と語り、林さんも「二度と戦争は起こしてほしくない」と強くその心の思いを語りました。

編集後記

昨年11月の「中国・樺太帰国者を知る集い」は、当センター初の試みでしたが、おかげさまで無事に開催することができました。後日新聞に載った記事を見て、喜ぶ帰国者の姿がありました。

教務から・日本語遠隔学習に新コース

学んでみませんか、介護資格

日本語「遠隔学習課程」に、新しく「介護職員初任者研修受講準備コース」が加わりました。

介護職員初任者とは、従来のホームヘルパー2級に相当し、自身では日常生活を送るのが困難な高齢者や障害者へ入浴、食事、排泄などの身体介護、そして掃除、洗濯、買い物、調理といった日常生活の援助をすることを前提とした資格です。

2013年度から介護の資格制度が新しくなり、ホームヘルパー2級研修が、「介護職員初任者研修」に変更されました。

この資格を持つ人は、在宅だけではなく養護老人ホームや、デイサービスセンターなどの施設で働くことも想定されています。また最近では、家庭内での介護にもいかせる知識として講座を受講し、資格を取る人も増えているそうです。

介護職員初任者研修は誰でも受講できますが、最後に筆記試験を受ける必要があります。

今回新しく加わったコースは、研修の受講に必要な基本的な知識を身につけ、講座で出題されるレポート問題やグループワークへの対応のしかたを学ぶことを目的としています。

いまのところテキストは中国語版のみですが、介護職に関心のある人を対象としています。興味のある方は、教務までお問い合わせください。

2月・3月の行事

2月5日	中国帰国者新年交流会
2月10日	健康運動教室
2月26日	DVD上映会
3月19日～4月10日	日本語教室春休み